MUSEUM NEWS

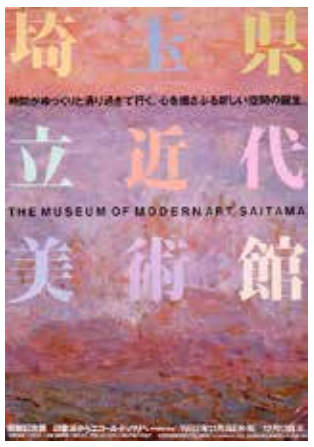
2022.4 ► 2022.5

開館 40 周年記念展

扉は開いているか
－美術館とコレクション 1982-2022

とき・2/5(土) ～ 5/15(日)
ところ・2階展示室
内容・1982年11月3日に開館した埼玉県立近代美術館は、2022年に開館40周年を迎えます。当館が40年にわたって積み重ねてきた活動を、収蔵作品や資料によって様々な角度から紹介します。これまで築いてきた土台を検証するとともに、これからの美術館を展望します。
観覧料・一般1000円(800円)、大高生800円(640円)
※ ( )内は20名以上の団体料金。中学生以下と障害者手帳等をご提示の方(付き添い1名を含む)は無料。併せてMOMASコレクションもご覧いただけます。

《関連イベント》
実施が決まり次第、HP等でお知らせします。



左:「開館記念展 印象派からエコール・ド・パリへ」ポスター 1982年
(デザイン:田中一光)
右:小村雪岱《見立寒山拾得》制作年不詳

MOMAS コレクション (収蔵品展)

2021年度 第4期
とき・2/12(土) ～ 4/24(日)
ところ・1 階展示室
観覧料・一般200円(120円)、大高生100円(60円)
※ ( )内は20名以上の団体料金。中学生以下と障害者手帳をご提示の方(付き添い1名を含む)は無料。

◇セレクション
モーリス・ドニ《シャグマユリの聖母子》ほか、MOMASコレクションの名品を紹介します。
◇たなごころの絵画
作家たちの手の軌跡に着目し、ドローイングや手のひらに収まるような小品を展示します。
◇末松正樹〈ダンス,ダンス,ダンス〉
画家・末松正樹が第二次世界大戦のさなかにフランスにとどまって制作した、前衛的な舞踊にインスピレーションを得たドローイング類をご覧ください。

倉田白羊《房州風景》1918年

2022年度 第1期
とき・4/30(土) ～ 8/28(日)
※ 会期中一部作品の展示替えがあります。
前期:6/26(日)まで／後期:6/28(火)から
ところ・1 階展示室
観覧料・2021年度第4期の観覧料と同一です。

◇セレクション
ルノワール《三人の浴女》ほか、MOMASコレクションの名品を紹介します。
◇デザインで語るユートピア―1960-70年代イタリアから
デザインを通して物質文化や生活環境が問い直された1960-70年代イタリア。その動きをデザイン椅子や関連資料から紹介します。
◇特集:孫雅由の小宇宙
生成と消滅、痕跡と不在など、哲学的思索と共に制作を続けた孫雅由（1949-2002）。県内の所蔵家・河正雄氏から寄贈された孫の小品群から、その思考と実践を探ります。

オーギュスト・ルノワール《三人の浴女》1917-19年

アート体感ワークショップ

MOMAS のとびら

全プログラム事前予約制です。
当館ホームページからお申込みください。

《5月のプログラム》
5月分のお申込みを4/1(金)から受け付けます。
〇彫刻あらいぐま
とき・5/7(土)、14(土) 各日13:30 ～ 15:00
対象・小・中学生＋保護者 **費用**・無料
《6月のプログラム》
6月分のお申込みを5/1(日)から受け付けます。
〇み～っけ！
とき・6/4(土)、11(土) 各日13:30 ～ 15:00
対象・未就学児(4～6歳)＋保護者 **費用**・無料
〇親子クルーズ
とき・6/25(土) 13:30 ～ 15:00
対象・小・中学生＋保護者 **費用**・500円

※ 開催日が複数あるプログラムは、いずれも同じ内容を実施します。複数の実施日にお申込みいただいても構いませんが、ご参加いただくのはそのうち１日のみとさせていただきます。また、応募が定員以上の場合は、抽選とさせていただきます。ご了承ください。
※ 「み～っけ！」「親子クルーズ」は、ＭＯＭＡＳコレクションか企画展のどちらかに関連した活動を行います。
※ 各プログラムの実施時間等は変更になる可能性があります。詳しくはホームページをご覧ください。

「MOMASのとびら」のページ
https://pref.spec.ed.jp/momas/MOMASのとびら

一般展示室 (地階)

※ 日程・内容は変更される場合があります。当館ホームページで最新内容をお知らせしています。
※ 展示により開室時間(特に最終日の終了時刻)が異なります。

◆3/29(火)～4/3(日)
春休みのひと休み みゃうか……一般展示室4
◆4/5(火)～4/10(日)
第50回記念主体美術武蔵野作家展……一般展示室2・3
第35回渓水会展……一般展示室4
◆4/12(火)～4/17(日)
第37回さいたま閨秀展……一般展示室1
第8回栗田ひさし・梨伽の絵画二人展……一般展示室3
第14回彩ボタニカルアート展……一般展示室4
◆4/19(火)～4/24(日)
第16回フォト・トルトゥーガ写真展……一般展示室2
記憶する眼 II ……一般展示室3
◆4/26(火)～5/1(日)
創立45周年記念埼玉女流工芸展……一般展示室1
第11回五彩展……一般展示室4
◆5/3(火)～5/8(日)
第25回埼玉二科展……一般展示室1～4

コレクションノート

今回は、「扉は開いているか―美術館とコレクション 1982-2022」で展示中の作品から、小村雪岱《「一本刀土俵入」舞台装置原画 序幕第一場 取手の宿・安孫子屋の前》をご紹介します。

《「一本刀土俵入」舞台装置原画 序幕第一場 取手の宿・安孫子屋の前》1931年

雪岱は、挿絵や装幀の仕事で多忙を極める一方、200作を超える演目の舞台装置を手掛けています。舞台装置は、まず台本をもとに構想され、作者や舞台監督、役者の案と照らし合わされます。そのうえで、見取り図となる原画、「道具帳」が制作されます(かつて、半紙に墨で線描きしたものを綴じたことから、道具帳と呼ばれます)。道具帳の色や調子を手本に、実際の装置が作られるため、制作の為の資料として実用的な役割を果たすものです。そうして出来た舞台装置に、役者の稽古の様子を見て修正を加えて、完成となります。雪岱は、大勢の意見を聞いて作り上げる舞台の仕事について「挿絵より難しい」と述べていますが、その舞台装置は、繊細な色彩感覚、丹念な時代考証を踏まえた写実性、そして情感のある景色描写で、多くの名優から絶大な信頼を寄せられました。

「一本刀土俵入」も、当時高く評価され、定番の舞台装置となったひとつです。この演目は、1931年7月に東京劇場で初演されました。長谷川伸台本の報恩物語で、6代目尾上菊五郎と5代目中村福助が演じ、大好評を得ます。その後、頻繁に上演されており、近年では、2017年6月に歌舞伎座で公演がありました。

話は、水戸街道の宿場町、取手の裏通りにある茶屋旅籠、安孫子屋を舞台に始まります。ある秋の日、店の前を通りかかった駒形茂兵衛は、酌婦のお蔦に出会います。茂兵衛は母の墓前で横綱の土俵入りを見せるため、関取を目指し江戸へ向かう途中でした。身の上話を聞き、お蔦は遠い郷里の母を思い出し、思わず手持ちの金子すべてと櫛、簪を差し出して茂兵衛を励ます。心を打たれた茂兵衛は、必ずお蔦に土俵入りを見て貰うことを約束し、去っていきます。

10年後の春、夢を諦め、颯爽とした渡世人となった茂兵衛がお蔦を訪ね、ふたたび取手に現れます。亭主がいかさまを働き、窮地に陥っていたお蔦を見つけ、心張棒と相撲技を使って追手から逃がした茂兵衛は、「ああ、お蔦さん。棒切れを振廻してする茂兵衛のこれが、十年前に櫛、簪、巾着ぐるみ意見をもらった姐さんに、せめて、見て貰う駒形のしがねえ姿の、横綱の土俵入りでござんす。」と、お蔦を見送り、幕になります。

二人が出会う安孫子屋の場面のため、雪岱は、長谷川や菊五郎と取手へ出かけています。同行した舞台装置家、釘町久磨次によると、台本に出てくるような茶屋はなかなか見当たらず、辛うじて見つけた寂れた休み処に入ったそうです。土間に2階へ上がる低い階段があり、菊五郎は、階段から若い女性が降りてくる様を見て、舞台になるとぴんと来たようです。雪岱は、その家を参考に、棟の低い二階建てを描き、軒下に菊の鉢をひとつ置き、老木の葉を地面に散らして、秋のうら寂しい風情を演出しました。

良い舞台装置とは、装置そのものが観客に注目されるのではなく、役者が芝居をしやすいものだとされます。雪岱の原画をご覧になるとき、色彩表現や景色の描写に目を向けるとともに、その場面で展開された物語を想像していただければと思います。(K.M.)

「一本刀土俵入」2015年1月歌舞伎座上演時舞台写真 ©松竹株式会社

ミュージアム・ショップおすすめ商品

春ですね。かわいらしい佇まいの「小さな手のひら事典(グラフィック社)」をご紹介します。手に収まるサイズ感(150×100mm)、ふわっとした表紙、ページの縁の金色も鮮やか。中を開けばアンティーク感溢れるレトロで美しいイラストの数々。各テーマごとに詳細な解説や逸話・格言など、広く楽しい読み物としてもおすすめです。ちょっとした贈り物にもぴったり。ぜひショップで手にとってご覧ください。

小さな手のひら事典(グラフィック社)
1,650円(税込)

※ 本紙記載の展覧会やイベントは、新型コロナウイルス感染拡散防止のため、変更・中止となる場合があります。ご来館前に当館ホームページで最新情報をご確認ください。

埼玉県立近代美術館 The Museum of Modern Art, Saitama
所在地・〒330-0061 埼玉県さいたま市浦和区常盤9-30-1
TEL・048-824-0111 **FAX**・048-824-0119 **代表メール**・p240111@pref.saitama.lg.jp
URL・https://pref.spec.ed.jp/momas/
開館時間・10:00～17:30 (展示室への入場は17:00まで)
休館日・月曜日(5/2は開館)、5/23～5/27 **入館料**・無料 **観覧料**・上記をご覧ください。
交通・JR京浜東北線 北浦和駅西口より徒歩3分(北浦和公園内)。JR東京駅、新宿駅から北浦和駅まで、それぞれ約35分。
※当館に専用駐車場はありませんが、提携駐車場「三井のリパーク 埼玉県立近代美術館東」では駐車料金の割引があります(企画展観覧で300円引き、MOMASコレクション観覧で100円引き)。
団体バスは事前にご相談ください。お体の不自由な方のご来館には業務用駐車場を提供いたします。
ただし、台数に限りがありますので、事前にご連絡をお願いします。
美術館ホームページ
彩の国 埼玉県 ©埼玉県2005

発行・埼玉県立近代美術館 **編集**・平野到・真中博行 **原稿執筆**・(M.R.) 松江李穂 / (S.H.) 鴫原悠 / (K.M.) 菊地真央 **広報協力**・JR 東日本大宮支社